

# 令和5年 厚生常任委員会行政視察報告書



視察日程：11月14日（火）～15日（水）

視 察 先：大阪府松原市「幼保連携型認定こども園 宮前つばさ幼稚園」  
「認定こども園宮前つばさ幼稚園の運営方法と新しい取り組み等について」  
大阪府大阪市「大阪広域環境施設組合 舞洲工場」  
「大阪広域環境施設組合舞洲工場の取り組みについて」

派遣委員：木下八重子（委員長）、好川章（副委員長）、寄谷猛男、高橋江海子、  
福井雅章、藤田哲也、田村勇、荒木文一、関藤龍也  
随 行：小島亜美（議会事務局）

## 幼保連携型 認定こども園 宮前つばさ幼稚園

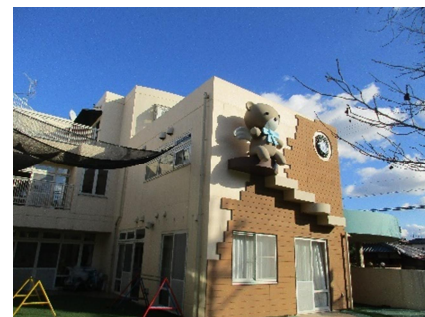
【目的】 社会福祉法人「博光福祉会」(1986年設立)が運営する保育事業(こども園を含む16事業所)を視察することで、就学前の幼児教育・保育を一体として捉え、一貫して提供する取り組みを学ぶ。



集中して説明を聞く委員

【内容】 大阪府松原市に設置されている「宮前つばさ幼稚園」は、幼保連携型こども園として運営され、教育方針としている「自分で考え最後までやり抜く子」を育む幼児教育を実践されている。

0歳児から5歳児まで9クラスの編成とし、ジビエ食育も念頭に給食調理員を含む職員50人態勢で日夜教育に当たられている。



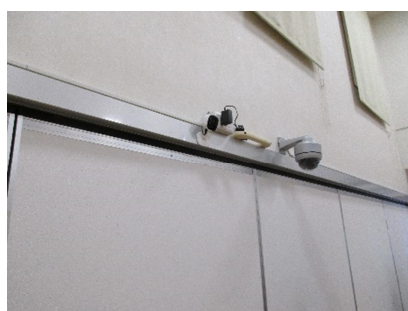
【宮前つばさ幼稚園の外観】



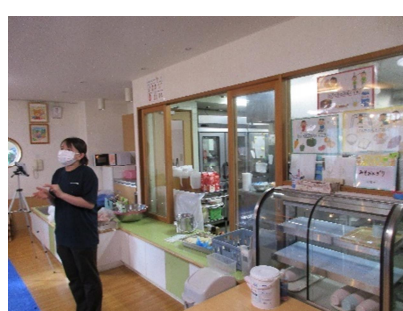
【教室内】

### 【特徴的な取り組み】

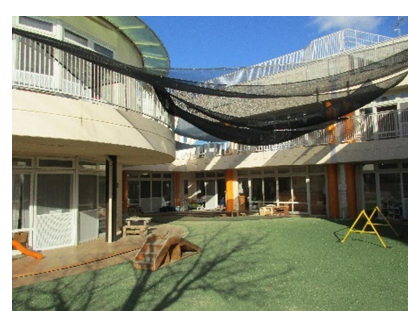
- ① より小さな子供に対する思いやりを育む異年齢保育
- ② 幼年消防団員、イベント参加など地域交流
- ③ 同法人が運営する介護施設でのお年寄りとの交流事業
- ④ 外国人講師との異文化・英会話等による交流
- ⑤ 人工芝が設置された園庭の保護者開放
- ⑥ 農園での「芋ほり」「いちご狩り」など食育教育
- ⑦ ルクミーを活用した「スマート保育」の実践



【体育館】



【給食室】



【中庭】

### 【課題と考えられる点】

- 保育業務の更なる ICT 化
- 通園バスの置き去り対策について、国の基準を満たした体制と設備を行っているが、園独自の防止策の強化
- 入園児の安全確保のため導入している「センサーシステム」による対策の更新等
- 多岐にわたる職員の業務負担軽減
- 入園者（保護者）ではない「地域のお母さん」の子育て支援の一環

## 【各委員の所感】

○経営する社会福祉法人が老人介護を含めた施設を多く経営しており、その一貫として定期的に交流をしていることや、0歳～5歳の園児が同じ園の中で交流できることは大切な児童教育だと思います。

○通園用バスに置き去り防止システムを導入し、確実に確認することになる方法を取り入れ、子どもを車内に置き去りにすることのないよう安心・安全をはかっているところは参考にすべきだと感じた。



訪問の挨拶を行う木下委員長

○ICTシステムの利活用により、保育士や職員の業務効率化だけではなく保護者の利便性や安心感、そして大人が子ども達と向き合う「コンタクトタイム」が増えているということが素晴らしいと感じた。素敵な遊具や遊び場に加え、少ない敷地の中でも開放感だったり自然を感じられる工夫が多々あった。世界の料理や日本の郷土料理を学習してから給食に取り入れたり、園の中で猪を丸々一頭捌くなど食育のレベルの高さに驚き、園長先生の教育や保育への熱い思いに感動した。

○ルクミー導入による人的資源の節約と作業効率の向上を感じ取ることができた。滝川市においても、人口減少やなり手不足の観点からも早急な導入が必要であるとともに、中空知の中心に位置する自治体として越境入園等にも対応できるような体制作りが必要であると考えた。

○教諭向けに行われていた猪を捌くデモンストレーションは、食事の重要性と自然との繋がりを深く理解する貴重な学びの機会でした。宮前つばさ幼稚園は子ども一人ひとりの育成に細心の注意を払い、保護者や地域社会との連携を大切にしている印象を受けました。視察で得た学びは、今後の教育・保育の参考になると感じた。

○当市にはない幼保連携型認定こども園は近い将来必要ではあるが、少子化の中で国が定める規模では実現可能か問うところがある。

○幼稚園の取り組みとして、保育 ICT が素晴らしいと感じた。保育士の負担軽減や良質な保育のみならず、保護者に対する安心にも繋がるシステムだと感じた。当市においても補助金など検証し、システムの導入を促してはどうか。

## 大阪広域環境施設組合 舞州工場

【目的】 最新の設備と技術を駆使した公害防止施設の機能、環境共生型の設備を視察し、ゼロカーボンを目指す取り組みを学ぶ。



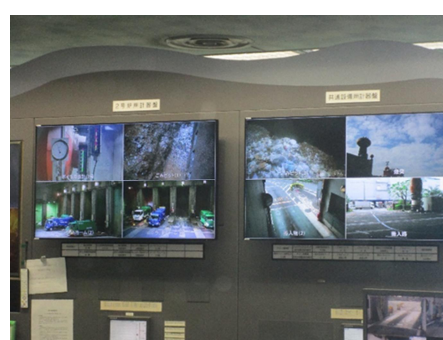
【大阪広域環境施設組合舞州工場の外観】

### 【概要】

|      |  |
|------|--|
| 敷地面積 | 約33,000平方メートル  |
| 処理能力 | 「焼却設備」 900t/日<br>「粗大ごみ処理設備」<br>170t/日                      |
| 事業費  | 約609億円   |
| 建築規模 | 7階建（一部地下2階建）<br>「建築面積」約17,000平方メートル<br>「延床面積」約57,000平方メートル |

### 【取り組み】

- ① 大阪市地球温暖化対策実行計画の実現
- ② 温室効果ガスの2013年度比の50%削減（2030年度目標）に向けた実践



【工場内ゴミ処理状況確認】

### 【案内ルート内の写真】



【課題と展望】 蒸気タービン併設による発電にて工場内全ての電気を賄うとともに、余剰電力は電力会社へ売電されている。またボイラーで発生した蒸気は建設局スラッジセンターへ供給、工場内での暖房、給湯に利用されており、再利用、環境負荷の軽減の仕組みは実践済み。今後の課題として、工場躯体を含めた設備等の大型修繕や更新に多額の費用が見込まれている。



大阪環境施設組合舞洲工場長  
大阪市環境局職員の皆様



説明を聞く委員

## 【各委員の所感】

○外観の設計者がフランスの芸術家で現代でもその奇抜さは類を見ず、ゴミ＝汚いというイメージの払拭は見事で年間見学者が絶えないと聞き、素晴らしいと感じた。

○環境との共生を考える機会となった。燃えるゴミを燃やして発電するところは共通しているが、燃焼効率の工夫などに違いがあり参考になった。

○ゴミ処理施設というのが一般的に臭いや煙等で嫌われがちな建物であることに着目し、あえてデザイナーに依頼し外観にお金をかけ派手な見た目で世間の注目を集め、見学者を爆発的に増やし環境問題に興味を持ってもらうという手法が素晴らしいと思った。見学者が多いためか職員の説明がわかりやすく、見学者ルートも子どもがワクワクするような仕掛けがたくさんあり、外観を自慢に思っている職員がたくさんいることも大変良いことだと思う。見かけだけではなく、焼却時のガスや熱によって3万世帯以上の電力をまかなえる発電ができるという点や、売電してお金を生み出せる施設であること、技術の進歩で無害で少ない量の排気にできていることなど、ゴミ処理施設のイメージがとても良いものになった。

○ごみの減量とよりリサイクルしやすい「ごみの質の向上」を実現し、持続性のある循環社会を目指す姿勢は大都市においては重要であると感じた。

○ユニークな外観と持続可能な廃棄物処理技術に感銘を受けました。フリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサーによるデザインは、一般的なゴミ工場のイメージを一新するもので、視察中はその芸術性に引き込まれました。また、工場が年間約1万2千人の見学者を引き寄せ、そのうちの3割が外国人であるという事実は、工場の国際的な魅力を物語っていると思いました。

○建設費600億円・外観・規模等に圧倒されるゴミ処理焼却施設、各地からの見学者も多いとのことだが、すべて無料は大都市のなせる業であり本市とは別世界である。



○まずは大胆で奇抜な外観に驚かされた。焼却施設としては、どこも同じ機能として稼働していると思うが、公害防止対策などに配慮した設備となっている。